国際会議 CANDAR 2021 開催報告

中野 浩嗣 藤田 聡

広島大学

藤原 一毅 鯉渕 道紘

国立情報学研究所

CANDAR (International Symposium on Computing and Networking, <http://is-candar.org/>) は、コンピューティングとネットワークングに関する幅広い分野を扱う国際会議であり、2013年に第1回は松山市で開催して以降、毎年11月下旬頃に日本国内で開催している。電子情報通信学会コンピュータ・システム研究会(CPSY)の協賛であり、論文集はIEEEから出版され、IEEEのデジタルライブラリに収録される。2021年の第9回は松江市で開催の予定であったが、昨年に引き続き、コロナ禍のため、11月24~26日の3日間のSlackとZoomを用いたバーチャル開催となった。

メインシンポジウムは5つのトラック (Algorithms and Applications, Architecture and Computer System, Networking and Grid, Artificial Intelligence and Software Engineering, Information and Computer Security) から構成され、合計77件の投稿があり、8件がLong Paper、20件がRegular Paperとして採択された。採択率は36%であり、質の高い論文が選ばれた。また、併設の9つのワークショップがあり、これらを含めて合計121件の発表があった。発表の方法は、(1) 最大20分間までの事前録画のプレゼンテーションビデオの作成 (インターネットで公

開)、及び(2)2枚のスライドによる5分間のプレゼンテーション (Zoomを利用)と質疑応答を行った。論文PDFと発表用スライドの公開、及び、テキストベースのオンラインの質疑応答にはSlackを用いた。オンラインならではの工夫した開催方法であり、従来のオンサイトでの開催に比べても、密度の濃い議論と意見交換が行えた。

CANDAR2021では、一般の講演に加え、5件の基調講演と、GraphGolfワークショップ、Workshop on Uncertainty-Tolerant Computing using Error-Prone Optical Communicationを企画した。また、メインシンポジウム全体で質の高い論文を1件をCANDAR Best Paper、これらに次いで評価の高い5つの論文をCANDAR Outstanding Paperとして表彰した。ワークショップ全体で評価の高いPoster論文をWorkshop Best Poster PaperとWorkshop Outstanding Poster Paperに選び、また、ワークショップ毎に優れた論文を1件ずつ表彰した。

2022年のCANDARは11月21日(月)~24日(木)に姫路市のアクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)で開催する予定である。メインシンポジウムの投稿締め切りは7月中旬を予定している。